

科目コード	20305		区 分	専門基礎科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	次世代教育学 [FE+他学科小学校免許希望者]		担当者名	大野呂 浩志、中安 翼			○		
			実務経験との関連	担当者の中で特別支援学校教員、小学校教員としての実務経験がある教員が実務経験を踏まえたテーマを扱い指導する。					
配当年次	1年	配当学期	通年	単位数	2.00	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業は、時代が求める、次世代の教育を担う「教師」育成のために、学校教育の現代的課題にも焦点を当て学校教育の目的、内容、方法及び教師に関わる基本的問題について考察し、授業を実践します。

<授業の到達目標>

次世代の教育を担う「教師」に必要な要素を身につける中で、次世代の児童に必要な要素は何なのかを意識し、現代的教育課題等に対する探究心や学び続ける意識も常に持ち、主体的に考え、解決しようとする態度を身につけることができる。

<授業の方法>

講義内においてレポートを作成し提出する事。授業形態は、講義形式だけでなく適宜グループワークやICT機器を活用したプレゼンテーション等の様々な形式を取り入れた授業を行います。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義・演習に臨む意欲・姿勢・態度30%、発表資料・課題50%、最終レポート20%により判断※意欲・姿勢・態度については教員、社会人にとって求められる決定的な資質・能力ですので、各自の意欲・姿勢・態度を出欠と講義と演習中における姿勢を重視して評価します。遅刻、居眠り、私語、講義の学習に不必要な行動や注意を受けた後の態度、行動は評価に大きな影響を及ぼします。出席の管理は担当教員が行います。

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	次世代教育学で学ぶ事	授業の概要について
2	次世代の教育を考える（特別講師による講義）	特別講師の講義を受け次世代の教育に必要な教師としての資質・能力について考える
3	次世代の教育を考える（特別講師による講義）	特別講師の講義を受け次世代の教育に必要な教師としての資質・能力について考える
4	次世代の教育を考える（特別講師による講義）	特別講師の講義を受け次世代の教育に必要な教師としての資質・能力について考える
5	次世代の教育を考える（特別講師による講義）	特別講師の講義を受け次世代の教育に必要な教師としての資質・能力について考える
6	次世代の教育を考える（特別講師による講義）	特別講師の講義を受け次世代の教育に必要な教師としての資質・能力について考える
7	前半のまとめ	前半の講義を振り返り、次世代の教育に必要な資質・能力について自分の考えをまとめ、発表する
8	次世代の教育を考える（特別講師による講義）	特別講師の講義を受け次世代の教育に必要な教師としての資質・能力について考え、今後自分が身につけていきたい力を明確にしていく
9	次世代の教育を考える（特別講師による講義）	特別講師の講義を受け次世代の教育に必要な教師としての資質・能力について考え、今後自分が身につけていきたい力を明確にしていく
10	次世代の教育を考える（特別講師による講義）	特別講師の講義を受け次世代の教育に必要な教師としての資質・能力について考え、今後自分が身につけていきたい力を明確にしていく
11	次世代の教育を考える（特別講師による講義）	特別講師の講義を受け次世代の教育に必要な教師としての資質・能力について考え、今後自分が身につけていきたい力を明確にしていく
12	次世代の教育を考える（特別講師による講義）	特別講師の講義を受け次世代の教育に必要な教師としての資質・能力について考え、今後自分が身につけていきたい力を明確にしていく
13	次世代教育について	次世代の教育について必要な資質能力をもとに、今後自分が身につけていきたい力についてまとめる
14	まとめ	本授業で学んだことを振り返り、将来どのような教員になりたいかについて発表する

科目コード	65020		区分	専門基礎			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	実践英文法（基礎）		担当者名	井上 聡			○		
			実務経験との関連	民間教育機関（学習塾・予備校等）教員、教育事業開発業務従事者としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	1年	配当学期	前期	単位数	2.00	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業の目的は、大学入試の基礎となる英文法への理解を深め、英語学習の方略を固めることです。事前課題（英検2級、英検準1級、TOEICの問題演習）をもとに、グループで教え合いを行い、講師の解説を傾聴し、理解度確認テストで「わかる」「わからない」を区別します。この授業はブレンド型（対面とオンラインの組み合わせ）によるアクティブ・ラーニング型の授業となります。PCまたはタブレットを持参の上、臨んでください。スマホの使用は、原則認めません。

<授業の到達目標>

1. 事前課題（調べ学習）に粘り強く取り組むことができる。2. 活発な意見交流を通してグループワークに貢献できる。3. 理解度確認テストで高いスコアを残すことができる。

<授業の方法>

事前課題の教え合い（40分）解説の傾聴（30分）意見交換（20分）※授業はすべてGoogle Classroom上で行われます。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

事前課題 30%, グループワーク 20%, 理解度確認テスト 40%, 意見交換 10%

<教科書>

授業中に配本予定

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	第1章 品詞解析①、オリエンテーション	授業の進め方、教材の使い方、品詞解析①
2	第2章 品詞解析②	教え合い、解説、振り返り
3	第3章 品詞解析③	教え合い、解説、振り返り
4	第4章 品詞解析④	教え合い、解説、振り返り
5	第5章 品詞解析⑤	教え合い、解説、振り返り
6	第6章 品詞解析⑥	教え合い、解説、振り返り
7	第7章 品詞解析⑦	教え合い、解説、振り返り
8	第8章 品詞解析⑧	教え合い、解説、振り返り
9	第9章 品詞解析⑨	教え合い、解説、振り返り
10	第10章 品詞解析⑩	教え合い、解説、振り返り
11	第11章 品詞解析⑪	教え合い、解説、振り返り
12	第12章 品詞解析⑫	教え合い、解説、振り返り
13	第13章 品詞解析⑬	教え合い、解説、振り返り
14	第14章 品詞解析⑭	教え合い、解説、振り返り

科目コード	24104		区 分	専門基礎科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	異文化コミュニケーション論		担当者名	羽田 あずさ			○		
			実務経験との関連	小学校教員としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

グローバル化が進む現在、異文化を背景として持つ相手と接触する機会も増えています。この授業は、まず自分を知り、次に相手の文化を理解し尊重する態度を身につけることを目的とします。そして様々な事例を読んだり、活動や実践に取り組んだりすることから、異文化理解および異文化コミュニケーションの意義や方法を学びます。なお、この授業はブレンド型（対面とオンラインの組み合わせ）で行いますので、PCを持参の上、臨んでください。受講者多数の場合は英語教員免許または日本語教員資格の取得予定者、および受講意欲の高い学生を優先します。

<授業の到達目標>

①異なる文化背景を持つ人々と協力できる関係をどのようにすれば築けるかが理解できる。②相手の文化を知り、それを尊重する態度を身に付けることができよう。③自分の持つ価値、支える背景文化に気づき、世界の価値観や、その背景となる社会・文化が理解できる。

<授業の方法>

(1) 講義（教員による解説と問いの提示）(2) グループワーク（学習内容に関する教え合い）(3) ディスカッション（問いに対する回答）(4) 省察活動（まとめと発表）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業課題への取り組み・意欲30%、レポート課題 50%、まとめテスト 20%

<教科書>

原沢伊都夫（2024年9月19日）異文化理解入門（改訂版）研究社

山本志都・石黒武人・Milton Bennett・岡部大祐（2022/11/30）異文化コミュニケーション・トレーニング「異」と共に成長する三修社

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	イントロダクション（第1章）	授業の進め方と異文化理解の意義について考える。
2	文化とは（第2章・第3章）	文化の定義について学び、自分の文化を振り返る。異文化とは何か考える。
3	異文化適応①（第4章）	私たちが異文化の中におかれた時、どのように適応していくのか、異文化適応の理論を学ぶ。
4	異文化適応②（第4章）	これまでに経験した「異文化適応」の経験を授業で扱った文化や異文化適応の概念を使って説明する。
5	違いに気づく（第6章）	活動を通して異文化への感受性を高める。
6	異文化への認識（第7章）	異文化に対する認識のメカニズムについて考える。
7	差別と異文化理解（第8章）	映像資料を視聴して、差別が起こる原因について考える。
8	世界の価値観（第9章）	様々な価値観について知り、それについて考える。自分の価値観と他者の価値観を比較する。
9	異文化トレーニング（第10章）	異文化を理解するトレーニングを体験し、異文化理解の方法を知る。
10	異文化受容（第11章）	異文化を受け入れるプロセスを学び、自分の異文化受容度を内省する。
11	自分を知る（第12章）	自分を知るための簡単なテストや活動を行う。授業の最後に今日知った自分について発表する。
12	非言語コミュニケーション（第13章）	非言語コミュニケーションにはどのようなものがあるか学び、自分はどのような非言語コミュニケーションをしているか内省する。
13	コミュニケーションスタイル（第14章）	自分のコミュニケーションスタイルを知る。また、相手を尊重するコミュニケーションの方法を考える。
14	多文化共生社会の実現（第15章）	多文化共生社会の実現に向けて、どのように異文化理解・異文化コミュニケーションを役立てるか考える。

科目コード	24201		区 分	専門基礎			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	比較文化論		担当者名	羽田 あずさ			○		
			実務経験との関連	小学校教員としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2.00	授業方法	講義・演習	卒業要件	なし

<授業の概要>

現在世界では様々な文化が存在しており、異文化理解、多文化共生のような言葉をメディアでよく耳にすることが増えてきた。しかし、歴史的にみるとこれらを経験した国がこれまでも多く存在した。そしてお互いの違いや共通点を分析することによって、お互いの多様性、共生への発展につながってきた。こうした様々な文化を比較研究するのが比較文化である。違いを学び未来への道を探る。

<授業の到達目標>

・自国文化と異文化を比較することによって、自国中心のものの見方や価値観ではなく、異文化と共生し、優れたものを吸収し、物事を多面的、複眼的にとらえて、国際的な見方や考え方を養うことができる。・グローバル化の進む日本社会や国際社会を多角的な視点で捉える知識を身につけることができる。

<授業の方法>

一部講義も行いますが、多くは皆さんが与えられたタスクに対して、一人で考えたり、ペア・グループで意見交換したりしながら授業を進めていきます。また、発表場面を随時設定します。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業参加度30% 振り返りレポート30% 発表40%

<教科書>

G・ホフステッド（2013年）多文化世界-違いを学び未来への道を探る-有斐閣

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション・他文化と日本文化の比較分析①	自分と他国・他文化との関わりを考える。衣食住を中心に他国と日本の類似点・相違点に気づく。
2	他文化と日本文化の比較分析②	衣食住を中心に他国と日本の類似点・相違点を調べて整理し発表する。
3	文化とは何か・文化研究の方法論	文化とは何かを知り、文化を学ぶ意義を考える。
4	文化次元テスト	自分の文化的傾向を知る。
5	権力格差・個人主義／集団主義①	権力格差、個人主義と集団主義について知り、様々な場面における違いについて考える。
6	権力格差・個人主義／集団主義②	権力格差、個人主義と集団主義について知り、様々な場面における違いについて考える。
7	権力格差・個人主義／集団主義③	権力格差、個人主義と集団主義について知り、様々な場面における違いについて発表する。
8	男性性／女性性・不確実性回避①	男性性と女性性、不確実性回避について知り、様々な場面における違いについて考える。
9	男性性／女性性・不確実性回避②	男性性と女性性、不確実性回避について知り、様々な場面における違いについて考える。
10	男性性／女性性・不確実性回避③	男性性と女性性、不確実性回避について知り、様々な場面における違いについて発表する。
11	長期志向と快樂主義①	長期志向と短期主義、放縦と抑制について知り、様々な場面における違いについて考える。
12	長期志向と快樂主義②	長期志向と短期主義、放縦と抑制について知り、様々な場面における違いについて考える。
13	長期志向と快樂主義③	長期志向と短期主義、放縦と抑制について知り、様々な場面における違いについて発表する。
14	異文化適応と共生・文化の変化	留学生や海外赴任者の経験を分析し、文化次元との関連を考える。

科目コード	21204	区分	専門基礎科目			実務経験のある教員等による授業科目			
授業科目名	英語科教育法 I (基礎)	担当者名	井上 聡			○			
		実務経験との関連	民間教育機関（学習塾・予備校等）教員、教育事業開発業務従事者としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。						
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業の目的は、英語科教育の過去と現在について理解を深め、これからの英語教育の方向性について自身の教育観を醸成することです。そのような資質を高めるため、本授業では、グループワークを軸として、英語教育理論、言語活動、教育実践に関する討論・発表が中心となります。事前課題の「問い」を通して問題を発見し、他者との意見交換を通して問題を解決し、プレゼンテーションや相互評価を通して、英語教師としての資質・能力を高めます。学修成果としては、協働性、批判的思考力、省察力、デジタル活用力を求めます。なお、この授業はブレンド型（対面とオンラインの組み合わせ）で行いますので、PCまたはタブレットを持参の上、臨んでください。中高英語免許取得を主専攻とする学生はもちろん、副専攻とする学生を力強く支援します。

<授業の到達目標>

1. 英語科教育の専門用語を深く理解し、体系化できる。2. 協同学習に主体的に参加し、多様な役割を担いつつ、グループ・ワークに貢献できる。3. 未来の英語教師として、自身の意見を適切かつ的確に発信できる。

<授業の方法>

グループ討論（30分）解説（30分）プレゼンテーション（30分）※授業はすべてGoogle Classroom上で行います。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

事前課題 30%, 理解度確認テスト 30%, プレゼンテーション 20%, 意見交換 20%

<教科書>

JACET教育問題研究会（2017年11月30日）英語科教育の基礎と実践ーリフレクティブな教師を目指してー三修社
特に指定なし

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	シラバスの説明、シミュレーション（事前課題、グループワーク）
2	第1章 外国語教育の目的と意義	日本の外国語教育の方向性、CEFRの言語教育観
3	第2章 英語教育課程と学習指導要領	教育課程と学習指導要領、日本の英語教育課程の今後の方向性
4	第4章 第二言語習得と教授法	SLA研究からの知見、教授法
5	第4章 学習者論	言語習得とは、自律と自立、学習者要因、英語学習に成功する学習者
6	第5章 英語教師論	教員として求められる資質・能力、言語教師の役割、英語教師の成長
7	まとめ	復習テスト
8	第6章 音と文字の指導 第7章 リスニング指導	基本概念とリスニング指導、基本概念とリーディング指導
9	第8章 スピーキング指導 第9章 リーディング指導	基本概念とスピーキング指導、基本概念とリーディング指導
10	第10章 ライティング指導 第11章 文法指導	基本概念、協同学習
11	第12章 語彙指導 第13章 異文化指導	基本概念と語彙指導、基本概念と異文化指導
12	第14章 評価とフィードバック 第15章 教材・ICTの活用	協働学習
13	第16章 授業計画 第17章 指導案の作成	指導案の作成（概案）
14	第18章 授業実践	指導案の作成（概案）

科目コード	24200		区 分	専門基礎科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	英語文法 [英語教員希望者限定]		担当者名	井上 聡			○		
			実務経験との関連	民間教育機関（学習塾・予備校等）教員、教育事業開発業務従事者としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	2年	配当学期	前期	単位数	2.00	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業の目的は、英文法について高校入試や大学入試レベルでの理解を深め、中高英語教員として教壇に立つための素地を構築することです。指導範囲・内容・レベルが広範かつ高度であるため、オリジナル教材とデジタル解説教材を用い、ハイブリッド形式で実施します。課題提出、採点・返却、協同学習、解説、理解度確認テスト、意見交換の順に進めますので、しっかり時間管理を行い、個人差を解消しましょう。学修成果としては、事前課題の精度、小テストのスコア、意見交換の質を求めます。この授業は中高英語教員免許取得のための必修科目ですが、特別な理由により履修を希望する場合は、必ず事前にメンター・ゼミ担当教員の了承を得ておいてください。

<授業の到達目標>

1. 長時間の事前学習に粘り強く取り組むことができる。2. 理解度確認テストで高得点を残すことができる。3. 授業後の意見交換において「学びの振り返り」ができる。

<授業の方法>

1. 例題・類題演習の提出（90分程度）2. 採点・返却3. 理解度確認テスト（30分程度）4. 意見交換（10分）※授業はすべてGoogle Classroom上で行われます。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

事前学習 30%, 理解度確認テスト 30%, 意見交換 10%, 期末試験 30%

<教科書>

井上聡（2022年4月3日）これからの英語教師のための深くて苦い英語文法 ※授業中に配本一粒社特に指定しない

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	第1章 英文の構造	自動詞と他動詞、修飾語と付加詞、補語と目的語、OOとOC、文型の判別
2	第2章 語順と意味	授与動詞、創造動詞、前置詞の使い方、文末焦点など
3	第3章 基本時制	時制の一致、未来を表す表現、いろいろな未来、名詞節と副詞節
4	第4章 完了時制	ニュアンス、用法の判別、完了を表すキーワード、複合問題
5	第5章 法助動詞	ニュアンス、種類、丁寧な用言、書き換え、be to、慣用表現
6	第6章 仮定法	仮定法時制、反実仮想、倒置、様々な構文
7	第7章 文末焦点と態	文体の自然性、態の変換、特殊な変換、前置詞の使い方
8	第8章 不定詞	用法、時制、不定詞と動名詞、原形不定詞、特殊な構文
9	第9章 動名詞	動名詞の時制、形態、語順、慣用表現
10	第10章 分詞	前置修飾と後置修飾、形態、感情動詞、付帯状況、補語、分詞構文
11	第11章 比較	比較の強調、様々な構文、書き換え
12	第12章 関係代名詞	情報量、格、制限用法と非制限用法、特殊な用法
13	第13章 関係副詞	関係代名詞との違い、関係副詞の成り立ち、特殊な用法、複合関係詞
14	第14章 接続詞と前置詞など	等位接続詞と接続副詞、従位接続詞、前置詞のニュアンス、無生物主語など

科目コード	51010	区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目			
授業科目名	教育実習事前・事後指導(英語)《通年》	担当者名	竹下 厚志、伊藤 仁美			○			
		実務経験との関連	担当者の中で高等学校教員としての実務経験がある教員が、実務経験をもとに実習について指導する。						
配当年次	3年	配当学期	通年	単位数	1.00	授業方法	実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

教育実習は、教職の現場を自ら体験することによって教師像を確立するという重要な意味を持っている。事前指導では、実習生に求められる任務を遂行する力や授業を行う技術の習得がねらいとする。事後指導では、受講生の実習経験を題材としてディスカッションを中心とした授業を行う。各受講生が教育実習期間中に経験した様々な事例を教材とし、教職に対する理解を深める機会とする。

<授業の到達目標>

(1) 事前指導において、教育実習に必要な心構えおよび指導案作成の技術を身に付けている。(2) 事後指導での実習報告やディスカッションを通し、自身の経験に基づいた目標とする教師像を具体的に提示できるようになる。

<授業の方法>

(1) 講義(教員による解説と問いの提示) (2) グループワーク(学習内容に関する教え合い) (3) ディスカッション(模擬授業を対象とした問いに対する回答) (4) 省察活動(まとめと発表)

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

参加姿勢・貢献 20%、指導案作成・模擬授業 50%、教育実習・実習報告 30% (一定の水準に達していない学生は、教育実習を認めない場合がある。)

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	教育実習に臨んで	教育実習の目的、心構え、児童生徒性暴力等の防止に関する理解を深める
2	授業観察	DVD教材を利用した授業観察、授業分析
3	授業準備	教科書分析・指導案作成準備
4	指導案の作成(1)	指導案作成の手順
5	指導案の作成(2)	指導技術の工夫
6	模擬授業(1)	模擬授業を実施
7	模擬授業(2)	模擬授業を実施
8	模擬授業(3)	模擬授業を実施
9	模擬授業(4)	模擬授業を実施
10	事前指導のまとめ	事前指導で学んだ内容の確認
11	教育実習の報告(1)	実習報告とディスカッション
12	教育実習の報告(2)	実習報告とディスカッション
13	教育実習の報告(3)	実習報告とディスカッション
14	事後指導のまとめ	実習全体の振り返り

科目コード	53076		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	教職実践演習 [中高英語]		担当者名	伊藤 仁美、竹下 厚志			○		
			実務経験との関連	担当者の中で高等学校教員としての実務経験がある教員が、実務経験をもとに実習について指導する。					
配当年次	4年	配当学期	後期	単位数	2.00	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

本授業は、4年間の学びと教育実習の経験を統合し、実践的指導力の確立を目指す。具体的には、教育に関わるテーマでのディスカッションに加え、学習指導要領の理念やSLA（第二言語習得）理論を「自らの実践を支えるもの」と捉え、教育実習での課題の省察や、テスト理論に準拠した定期テストの作成を行う。また、毎回のミニ講義後には、専門用語等の知識・技能の定着を確認する小テストを実施する。

<授業の到達目標>

(1) 英語教育に関する諸課題について、英語を用いたディスカッションを通じ、自身の考えを論理的に発信できるようになる。(2) SLAやテスト理論などに関する重要な専門用語の知識・技能を正確に身につけている。(3) 教育実習での課題（Teacher Talk、タスク設計など）に対し、原因を特定し、第二言語習得（SLA）の理論等を用いて具体的な改善策を提示できるようになる。(4) 実践を省察するサイクルを体得し、教職就任後も自律的に授業改善を継続する「省察の実践家」としての資質を身につけている。

<授業の方法>

(1)講義（教員による解説と問いの提示） (2)グループワーク（教材開発およびテスト作成） (3)ディスカッション（実践省察）(4)プレゼンテーション（教材・テスト・省察）

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

成果物と発表50%、小テスト30%、授業への積極的な参加姿勢・貢献20%

<教科書>

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	教職実践演習の目的、授業の進め方、英語教師の成長
2	教育と英語（1）	教育にかかわる英語ディスカッション1
3	教育と英語（2）	教育にかかわる英語ディスカッション2
4	教育と英語（3）	教育にかかわる英語ディスカッション3
5	まとめ	これまでの成果発表
6	実践省察（1）	実習経験の共有、分析と解決策の提案、SLA理論解説1
7	実践省察（2）	実習経験の共有、分析と解決策の提案、SLA理論解説2
8	実践省察（3）	実習経験の共有、分析と解決策の提案、SLA理論解説3
9	実践省察（4）	実習経験の共有、分析と解決策の提案、SLA理論解説4
10	テスト作成（1）	定期テスト作成発表準備1
11	テスト作成（2）	定期テスト作成発表準備2
12	テスト作成発表（1）	作成した定期テスト内容の発表1
13	テスト作成発表（2）	作成した定期テスト内容の発表2
14	まとめ	4年間の学びと本授業の総括、履修カルテの記入

科目コード	31402	区分	コア			実務経験のある教員等による授業科目			
授業科目名	学習指導と学校図書館	担当者名	内田 仁志			○			
		実務経験との関連	小学校教員としての実務経験がある教員が実務経験を踏まえたテーマを扱い指導する。						
配当年次	4年	配当学期	後期	単位数	2.00	授業方法	講義・演習・発表	卒業要件	選択

<授業の概要>

児童生徒の学習活動と学校図書館メディアとの関係について理解し、学校図書館を活用した学習指導の方法を学ぶ。レファレンスブックの特性と活用方法、情報活用能力の育成、パスファインダーの作成など、学習活動を支援する具体的な方法について扱う。また教科書を用い、資料を根拠として考えを形成し、対話や議論を通して学びを深める授業の在り方について理解する。

<授業の到達目標>

- ① レファレンスブックを適切に活用できる② 学校図書館メディアを用いた指導を説明できる③ パスファインダーを作成できる④ 情報活用能力の育成について理解する

<授業の方法>

本授業は対面形式で実施し、講義とグループワークを組み合わせる。前半では学校図書館メディアの特性やレファレンス、情報活用能力について講義を通して理解する。後半では教科書を用い、資料を活用した思考活動や議論活動を体験しながら、学校図書館を活用した授業づくりについて学ぶ。

<成績評価方法> ※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

毎回の課題提出を重視し、継続的な学習状況を評価する。・毎回レポート提出30%・レポート内容40%・最終まとめ 30%

<教科書>

内田仁志（2024年8月）国語教師のための「反論の技術」入門明治図書

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	授業の概要と学校図書館活用の意義	本授業の目的、進め方、評価方法について説明する。学校図書館を活用した学習の意義について概観し、学校教育における学校図書館の役割を理解する。読書活動だけでなく、調べ学習や探究学習の場としての機能に着目し、学校図書館が学習活動の基盤となる理由について考える。
2	学習活動と学校図書館	児童生徒の学習活動と学校図書館の関係について学ぶ。各教科の学習において資料活用がどのように行われるかを理解し、学校図書館が学習を支える役割を確認する。調べ学習や探究学習における図書館活用の具体的な場面を想定しながら、その教育的意義について考える。
3	レファレンスブックの基礎	辞書、事典、年鑑などのレファレンスブックの種類と特性について学ぶ。各資料の特徴や用途を理解し、どのような場面で活用するかを具体的に考える。児童生徒が必要な情報に適切にアクセスするための基礎的な知識として、レファレンス資料の役割を理解する。
4	レファレンスサービスの実践	学校図書館におけるレファレンスサービスの実践について学ぶ。児童生徒の問いに応じて資料を紹介し、学習を支援する方法について理解する。調べ学習における支援の在り方や、教師と司書教諭の連携の重要性について具体的な事例をもとに考える。
5	情報活用能力の基礎	情報活用能力の基本的な構成について学ぶ。情報の収集、整理、活用の一連の過程を理解し、学校教育におけるその育成の重要性について考える。資料をもとに考えを形成する学習活動の基礎として、情報活用能力がどのように位置づけられるかを整理する。教科書 第1章（導入）
6	資料を活用した思考活動	学校図書館資料を活用し、主張と根拠を整理する思考活動について学ぶ。文章や資料を読み取り、情報を比較・整理しながら自分の考えを形成する過程を理解する。情報活用能力の育成という観点から、資料を根拠とする思考活動の意義について考える。教科書 第1章
7	教材としての資料の選択	学習活動に適した資料の選び方について学ぶ。児童生徒の発達段階や学習課題に応じた資料選択の視点を理解し、教材としての資料の条件について考える。学校図書館資料を活用した授業づくりにおいて、どのような資料が有効かを具体的に検討する。
8	情報活用と意見形成	資料をもとに自分の意見を形成する学習について学ぶ。情報を読み取り整理し、主張と理由を明確にする過程を理解する。学校図書館資料を活用した学習活動において、思考力や表現力を育てる指導の在り方について考える。教科書 第3章
9	対話と議論の指導①	資料をもとにした対話や話し合い活動について学ぶ。自分の考えを表現し、他者の意見と比較することで理解を深める学習の意義を理解する。学校図書館資料を活用した対話的な学びの具体的な進め方について考える。教科書 第4章

10	対話と議論の指導②（発展）	議論活動を通して思考を深める学習について学ぶ。複数の資料を比較しながら意見を構築する過程を理解し、議論によって学びを深化させる指導の在り方について考える。学校図書館資料を活用した議論活動の展開方法を検討する。教科書 第4章（応用）
11	批判的思考の育成	資料を批判的に読み取る力について学ぶ。主張と根拠の妥当性を検討し、多様な視点から情報を捉える思考の重要性を理解する。学校図書館資料を活用して情報を吟味する学習活動の意義について考える。教科書 第5章
12	パスファインダーの作成	学習活動を支援するパスファインダーの作成について学ぶ。調べ学習において必要な資料を整理し、学習の見通しを持たせるための工夫について理解する。学校図書館資料を活用した学習支援の方法として、パスファインダーの役割を考える。教科書 第2章・第5章（応用）
13	図書館を活用した授業設計	学校図書館を活用した授業設計について学ぶ。資料を活用して課題を解決する学習活動の構成を理解し、児童生徒の思考を深める授業づくりの視点を整理する。図書館と教科指導を結び付けた授業の在り方について考える。教科書 第6章
14	まとめと確認テスト	授業全体を振り返り、学校図書館を活用した学習指導の意義と方法について整理する。レファレンス、情報活用能力、授業設計などの内容を総合的に確認し、理解の定着を図る。確認テストを通して学習内容の到達度を把握する。教科書総括

科目コード	24303	区分	専門基礎科目			実務経験のある教員等による授業科目			
授業科目名	上級英語文法 [英語教員希望者限定週間オンデマンド]	担当者名	井上 聡			○			
		実務経験との関連	民間教育機関（学習塾・予備校等）教員、教育事業開発業務従事者としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。						
配当年次	3年	配当学期	前期	単位数	2.00	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業の目的は、難度の高い英文法の知識を網羅型で学習し、英検準1級以上、TOEICスコア785点以上の英語力を身に着けることです。デジタル解説教材とオリジナル教材を活用して事前に問題点を明らかにし、文法問題演習を繰り返し、オンライン試験を通して理解度を高めましょう。学習成果としては、デジタル教材の活用力、理解度確認テストのスコア、意見交換の質を求めます。なお、この授業はオンデマンド型で行いますので、課題提出やテスト受験等の期限を必ず守ってください。※原則、英語教職課程履修者のみ受講を受理します。他の要因で履修を希望する場合は、メンターやゼミ担当教員の了承を事前に得ておいてください。

<授業の到達目標>

1. 事前学習（ノートテイキング）に粘り強く取り組み、「分かること」と「分からないこと」を区別できる。2. 理解度確認テストで高い正答率を残すことができる。3. 意見交換の場で、学びの内容を適切に言語化できる。

<授業の方法>

1. 事前課題（テキスト8ページの予習）（2時間程度）2. 採点・返却3. 理解度家訓テスト（30分程度）4. 意見交換（5分）※授業はすべてGoogle Classroom上で行われます。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

事前課題 30%、理解度確認テスト 30%、意見交換 10%、期末試験 30%

<教科書>

井上聡（2022年4月）上級英語文法：攻略ポイント210※継続履修できる学生にのみ、直接配布します。一粒書房

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	シラバス説明、シミュレーション（教科書・デジタル教材の使い方）
2	第1章 動詞の語法① 第2章 動詞の語法②	例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換
3	第3章 動詞の時制 第4章 法助動詞	例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換
4	第5章 態の変換 第6章 不定詞①	例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換
5	第7章 不定詞② 第8章 分詞	例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換
6	第9章 動名詞 第10章 関係詞①	例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換
7	第11章 関係詞② 第12章 仮定法	例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換
8	第13章 比較表現① 第14章 比較表現②	例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換
9	第15章 名詞の語法 第16章 代名詞の語法	例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換
10	第17章 形容詞の語法 第18章 副詞の語法	例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換
11	第19章 接続詞① 第20章 接続詞②	例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換
12	第21章 前置詞① 第22章 前置詞②	例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換
13	第23章 疑問・否定・倒置・強調・一致 第24章 まとめ	例題、類題、課題、添削、テスト、意見交換
14	総復習	例題、類題、テスト

科目コード	65023		区 分	専門基礎科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	リーディング・スキル（応用） [英語教員希望者限定週間オンデマンド]		担当者名	井上 聡			○		
			実務経験との関連	民間教育機関（学習塾・予備校等）教員、教育事業開発業務従事者としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	2	配当学期	後期	単位数	2.00	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業はオンデマンド型で実施し、英検準1級レベルの英文の速読・精読力に加え、同レベルの語彙・構文解析力を強化します。事前課題（読解・語彙・文法のノートテイキング）に取り組み、理解度確認テストを受験し、その結果に基づいて、「何を学ぶことができたか」「どのように学んだのか」について意見交換を行います。事前課題の質、理解度確認テストのスコア、意見交換の質の3点に基づいて成績評価を行います。※この科目は原則、英語教職課程の履修者しか受講できません。他の理由で履修を希望する場合は、メンターやゼミ担当教員の了承を事前に得ておいてください。

<授業の到達目標>

1. デジタル解説動画を活用し、事前課題（長文読解）に粘り強く取り組むことができる。2. 理解度確認テストを受験し、その結果を適切に振り返ることができる。3. 事前課題と理解度確認テストを通して得られた学びを「意見交換」の場で言語化できる。※授業中のデータ共有はすべてGoogle Classroomで行います。

<授業の方法>

1. 事前課題（長文の読解、授業動画の視聴、ノート作成、提出）※授業前日まで 2. 理解度確認テスト（Google Form）※授業日のみ 3. 意見交換（Google Classroom）※授業日のみ

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

事前課題の質 30%、理解度確認テスト 30%、Review Test 20%、意見交換 20%

<教科書>

特に指定なし

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	"Drink Responsibly" Messages	事前課題+理解度確認テスト+意見交換
2	Dog Colors	事前課題+理解度確認テスト+意見交換
3	Lightning Strikes and Ships	事前課題+理解度確認テスト+意見交換
4	Minimalism: Is Less Really More?	事前課題+理解度確認テスト+意見交換
5	Review 1	Review Test_01 実力テスト_01
6	The Thaba-Tseka Development Project	事前課題+理解度確認テスト+意見交換
7	The Uncertainties of Celiac Disease	事前課題+理解度確認テスト+意見交換
8	REDD+	事前課題+理解度確認テスト+意見交換
9	Summer Jobs	事前課題+理解度確認テスト+意見交換
10	Review 2	Review Test_02 実力テスト_02
11	Stranded Whales	事前課題+理解度確認テスト+意見交換
12	Airplanes and Germs	事前課題+理解度確認テスト+意見交換
13	Young People and Sports	事前課題+理解度確認テスト+意見交換
14	Medical Voluntourism	事前課題+理解度確認テスト+意見交換

科目コード	65022		区 分	専門基礎科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	リーディング・スキル（基礎） [英語教員希望者限定週間オンデマンド]		担当者名	井上 聡			○		
			実務経験との関連	民間教育機関（学習塾・予備校等）教員、教育事業開発業務従事者としての実務経験から得られた専門的知見を授業内容に反映している。					
配当年次	1	配当学期	後期	単位数	2.00	授業方法	講義	卒業要件	選択

<授業の概要>

本授業はオンデマンド型で実施し、英検2級レベルで、英文の速読・精読力と語彙力・構文解析力を強化します。Google Classroomを通して配信された事前課題に取り組み、課題の提出・採点・返却後に理解度確認テストを受験し、その結果に基づいて、「何を学ぶことができたか」「どのように学んだのか」について意見交換を行います。事前課題の質、理解度確認テストのスコア、意見交換の質の3点に基づいて成績評価を行います。※この科目は原則、英語教職課程の履修者しか受講できません。他の理由で履修を希望する場合は、メンターやゼミ担当教員の了承を事前に得ておいてください。

<授業の到達目標>

1. 授業動画を活用し、事前課題（英検2級の長文読解）に粘り強く取り組むことができる。2. 理解度確認テストを受験し、その結果を適切に振り返ることができる。3. 事前課題と理解度確認テストを通して得た学びを「意見交換」の場で言語化できる。※授業はすべてGoogle Classroom上で行います。

<授業の方法>

1. 事前課題（長文の読解、授業動画の視聴、ノート作成、提出）※授業日の前日 2. 理解度確認テスト（Google Form）※授業日のみ 3. 意見交換（Google Classroom）※授業日のみ

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

事前課題の質 30%、理解度確認テスト 30%、Review Test 20%、意見交換 20%

<教科書>

特に指定なし

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	Generations Helping Each Other	事前課題+理解度確認テスト+意見交換
2	Metal Foam	事前課題+理解度確認テスト+意見交換
3	A New Type of Chocolate	事前課題+理解度確認テスト+意見交換
4	A New Way to Use a Computer	事前課題+理解度確認テスト+意見交換
5	Review 1	Review Test_01 実力テスト_01
6	The Price of a Song	事前課題+理解度確認テスト+意見交換
7	A Model Tourist Town	事前課題+理解度確認テスト+意見交換
8	The Mysterious Mummies	事前課題+理解度確認テスト+意見交換
9	Female Pioneers	事前課題+理解度確認テスト+意見交換
10	Review 2	Review Test_02 実力テスト_02
11	Counting Every Children	事前課題+理解度確認テスト+意見交換
12	Smart Stickers	事前課題+理解度確認テスト+意見交換
13	Bibliotherapy	事前課題+理解度確認テスト+意見交換
14	Bringing Back Ancient Plants	事前課題+理解度確認テスト+意見交換

科目コード	31400	区分	コア			実務経験のある教員等による授業科目			
授業科目名	学校経営と学校図書館 [週間オンデマンド]	担当者名	内田 仁志			○			
		実務経験との関連	小学校教員としての実務経験がある教員が実務経験を踏まえたテーマを扱い指導する。						
配当年次	4年	配当学期	後期週間オンデマンド	単位数	2.00	授業方法	オンデマンド	卒業要件	選択

<授業の概要>

学校教育における学校図書館の役割について、社会・教育制度・学校経営の視点から理解する。学校図書館法や教育行政との関係、学校図書館の経営や運営、司書教諭の役割と職務について学ぶ。また学校図書館は読書活動の場であるだけでなく、資料を活用した学習活動や情報活用能力の育成を支える学習の拠点でもある。本授業では参考書を用い、資料を根拠として考えを形成する思考活動や議論活動の方法についても理解を深める。オンデマンド形式で講義を行い、各回の振り返り課題により学習内容の整理を行う。

<授業の到達目標>

- ① 学校図書館の理念と役割について説明できる。② 学校図書館法や教育行政との関係について理解する。③ 学校図書館の経営・運営および司書教諭の職務について説明できる。④ 学校図書館資料を活用した学習活動や情報活用能力の育成について理解する。

<授業の方法>

本授業はオンデマンド形式で実施する。各回では講義動画と配布資料を用いて学校図書館の理念、制度、経営、司書教諭の役割について解説する。受講者は動画視聴後にGoogleフォームによる振り返り課題に取り組み、学習内容を整理する。授業後半では参考書を用い、資料を根拠として意見を形成する学習活動や議論活動の教育的意義について考察する。学校図書館を活用した学習活動の可能性について理解を深める。

<成績評価方法> ※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

毎回の課題提出を重視し、継続的な学習状況を評価する。・毎回レポート提出30%・レポート内容40%・最終まとめ 30%

<教科書>

内田仁志（2024年8月）国語教師のための「反論の技術」入門明治図書

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	授業の概要と学校図書館の役割	本授業の目的、授業方法、評価方法について説明する。学校教育における学校図書館の役割を概観し、読書センター・学習センター・情報センターとしての三つの機能について理解する。学校図書館が学校教育において果たす基本的役割を整理する。
2	学校教育と学校図書館	学校教育における学校図書館の教育的意義について学ぶ。読書活動の推進や学習活動の支援など、教育活動の中で学校図書館がどのように活用されているかを理解する。学校図書館が児童生徒の学習環境を支える教育施設であることを確認する。
3	学校図書館制度と法制度	学校図書館法を中心に学校図書館の制度について理解する。学校図書館の設置目的や教育行政との関係について学び、学校図書館が教育制度の中でどのように位置づけられているかを確認する。
4	司書教諭の役割と職務	司書教諭の役割と職務について理解する。学校図書館の運営や読書活動の推進、授業支援など司書教諭が学校教育の中で担う役割について学ぶ。学校図書館が教育活動を支える場として機能するための条件について考える。
5	学校図書館の経営と運営	学校図書館の経営や運営について学ぶ。図書資料の整備や利用促進、学校全体での図書館活用など学校図書館を効果的に運営するための基本的視点を理解する。学校図書館経営の基本的考え方を整理する。
6	学校図書館メディアの整備	学校図書館における資料の収集・整理・提供について学ぶ。児童生徒の学習活動を支える資料整備の重要性を理解し、学校図書館資料が学習活動にどのように活用されるかを確認する。
7	読書活動と学校図書館	学校図書館を中心とした読書活動の意義について理解する。読書活動が児童生徒の言語能力や思考力の育成にどのように関わるかを考える。学校図書館を活用した読書活動の実践について整理する。
8	学校図書館と論理的思考	学校図書館資料を活用し、資料を読み取り主張と根拠を整理する思考活動について学ぶ。資料を根拠として意見を形成する学習活動の意義を理解し、情報活用能力の育成という観点から学校図書館の役割を考える。教科書第1章
9	教材研究と資料の選択	学習活動においてどのような資料を教材として選ぶかについて学ぶ。児童生徒の生活と関連した教材の重要性を理解し、学校図書館資料を活用した教材研究の視点について考える。教科書第2章

10	話し合い活動と論理構成	主張と理由の関係を整理しながら考えをまとめる方法について学ぶ。学校図書館資料を根拠として意見を形成する学習活動を通して、論理的思考を育てる授業の可能性について考える。教科書 第3章
11	議論活動の教育的意義	資料を根拠として意見を述べ、他者の意見と比較する議論活動について学ぶ。学校図書館を活用した議論活動が思考力や表現力の育成にどのように関わるかを理解する。教科書第4章
12	批判的思考の育成	資料を読み取り主張と根拠を吟味しながら考える批判的思考について学ぶ。学校図書館資料を活用して多様な意見を比較する学習活動の意義を理解する。教科書 第5章
13	学校図書館を活用した授業設計	学校図書館資料を活用した授業の設計について考える。資料を用いて意見を形成し交流する学習活動の方法を理解し、学校図書館が学習活動の拠点となる授業づくりの視点を整理する。教科書 第6章
14	授業のまとめと確認テスト	授業全体を振り返り、学校教育における学校図書館の役割について整理する。学校図書館の理念、制度、運営、学習活動への活用について確認し、Googleフォームによる確認テストを実施する。教科書総括

科目コード	31403		区分	コア			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	読書と豊かな人間性 [週間オンデマンド]		担当者名	内田 仁志			○		
			実務経験との関連	小学校教員としての実務経験がある教員が実務経験を踏まえたテーマを扱い指導する。					
配当年次	4年	配当学期	後期オンデマンド	単位数	2.00	授業方法	オンデマンド	卒業要件	選択

<授業の概要>

発達段階に応じた読書のあり方について理解し、読書教育の意義と方法について学ぶ。児童生徒が読書の楽しさを知り、読書習慣を形成し、生涯にわたる学びへとつなげるための指導について考える。また学校図書館を活用した読書活動や読書環境の整備についても扱う。さらに読書を通じた思考力・表現力の育成にも着目し、教科書を用いて文章理解や意見形成の方法について理解を深める。オンデマンド形式で実施する。

<授業の到達目標>

① 発達段階に応じた読書指導について説明できる② 読書教育の意義と方法について理解する③ 司書教諭の役割と読書活動の関係を説明できる④ 読書を通じた思考力・表現力の育成について理解する

<授業の方法>

本授業はオンデマンド形式で実施する。各回では講義動画と資料を用いて読書教育の理論や実践について解説する。受講者は動画視聴後にGoogleフォームによる振り返り課題に取り組み、学習内容を整理する。授業後半では教科書を用い、文章を読み取り主張と根拠を整理する活動や意見形成の方法について学ぶ。

<成績評価方法> ※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

毎回の課題提出を重視し、継続的な学習状況を評価する。・毎回レポート提出30％・レポート内容40％・最終まとめ30％

<教科書>

内田仁志（2024年8月）国語教師のための「反論の技術」入門明治図書

<参考書>

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	授業の概要と読書教育の意義	読書教育の目的と意義を概観し、読書が児童生徒の成長に果たす役割を理解する。
2	読書と人間形成	読書が情緒や価値観の形成に与える影響について理解し、読書の教育的意義を考える。
3	発達段階と読書①（低学年）	低学年における読書の特徴と指導方法を理解し、読書習慣形成の基礎を学ぶ。
4	発達段階と読書②（中学年）	中学年における読書の発達と指導の工夫について理解する。
5	発達段階と読書③（高学年・中高）	高学年以降の読書の発達と読解の深化について理解する。
6	読書環境の整備	学校図書館を中心とした読書環境づくりについて理解する。
7	司書教諭と読書活動	司書教諭の役割と読書活動の推進について理解する。
8	読書と論理的思考	文章を読み取り主張と根拠を整理する活動について学び、読書と思考力の関係を理解する。教科書 第1章
9	教材としての文章理解	主張と根拠が明確な文章の特徴を理解し、教材としての文章の扱い方を学ぶ。教科書 第2章
10	読書と意見形成	文章内容を踏まえて自分の考えを形成する方法について理解する。教科書 第3章
11	読書と対話・議論	読書内容をもとに意見を交流する学習活動について理解する。教科書 第4章
12	批判的読解	主張と根拠を吟味しながら読む批判的読解の方法について学ぶ。教科書 第5章
13	読書を生かした授業設計	読書活動を生かした授業づくりの視点について理解する。教科書 第6章
14	まとめと確認テスト	読書教育の意義と方法について整理し、確認テストを実施する。教科書総括